

令和3年度事業再評価

都市局：3事業

番号	事業名	箇所名	代表事業
27	街路整備事業	J R 東海道本線・J R 御殿場線 (沼津駅付近連続立体交差事業)	○
28	街路整備事業	都市計画道路 <small>しだちゅうおうかんせん</small> 志太中央幹線	
29	街路整備事業	都市計画道路 <small>いけしんでんちゅうおうせん なかまちこうく</small> 池新田中央線 (中町工区)	

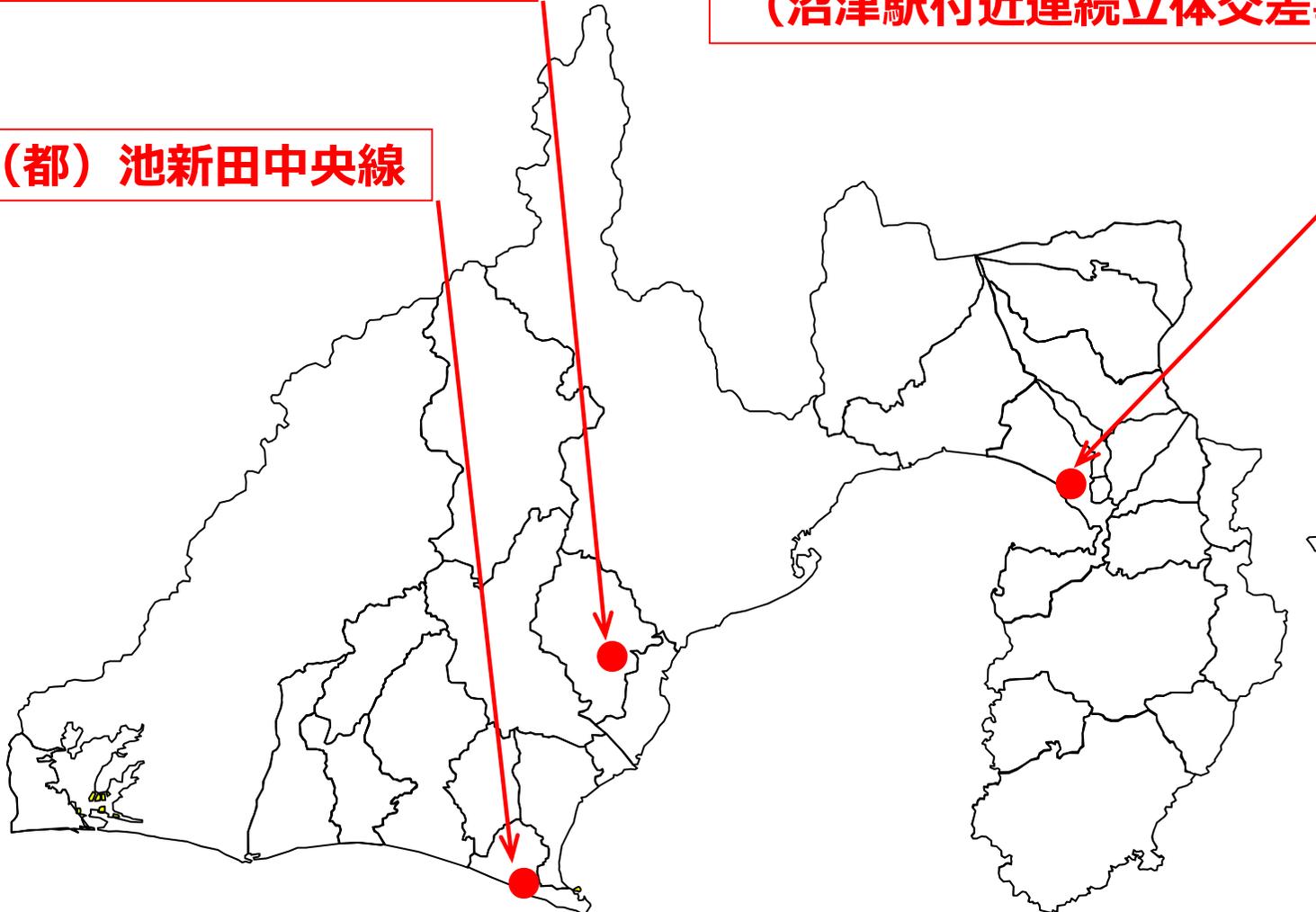
交通基盤部 都市局 街路整備課

都市局所管 再評価事業箇所

28 (都) 志太中央幹線

27 JR東海道本線・JR御殿場線
(沼津駅付近連続立体交差事業)

29 (都) 池新田中央線





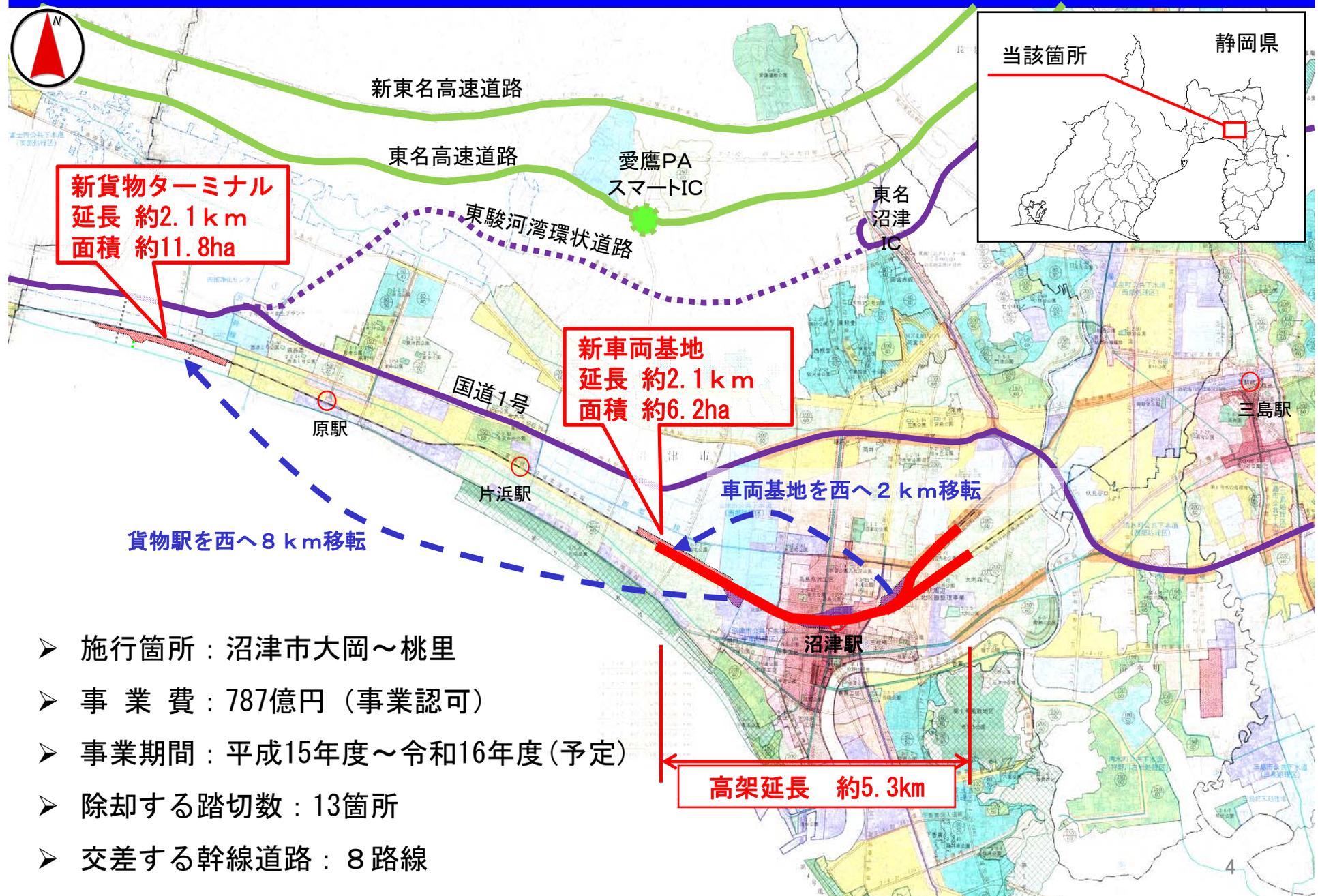
令和3年度

JR東海道本線・JR御殿場線
(沼津駅付近連続立体交差事業)

事業再評価

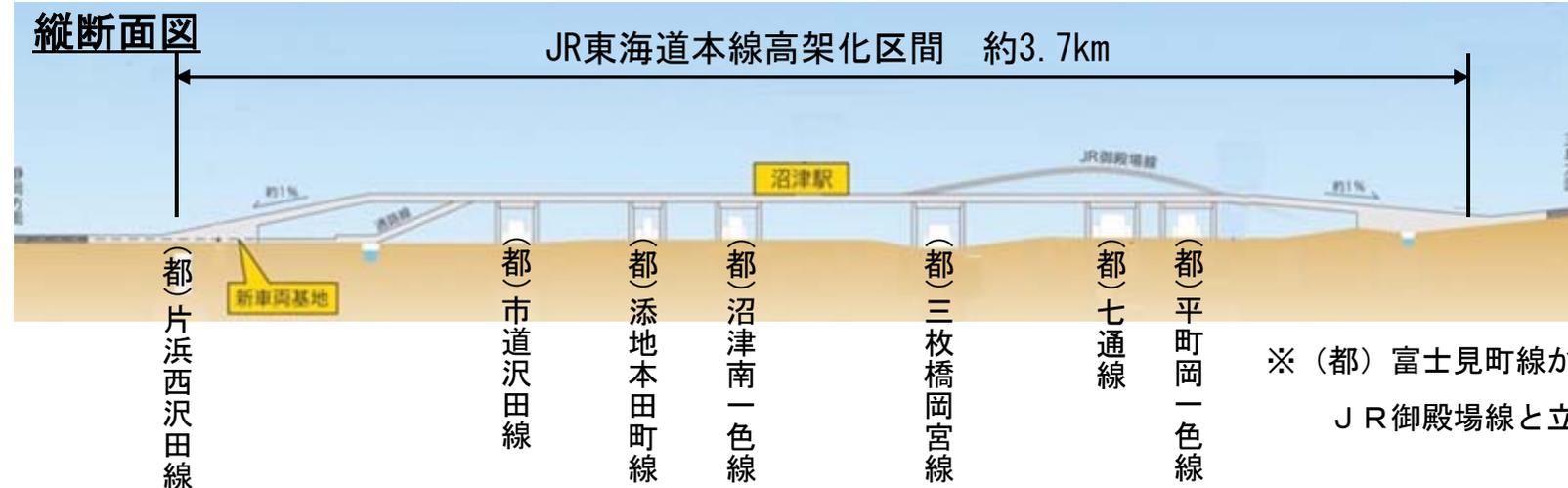
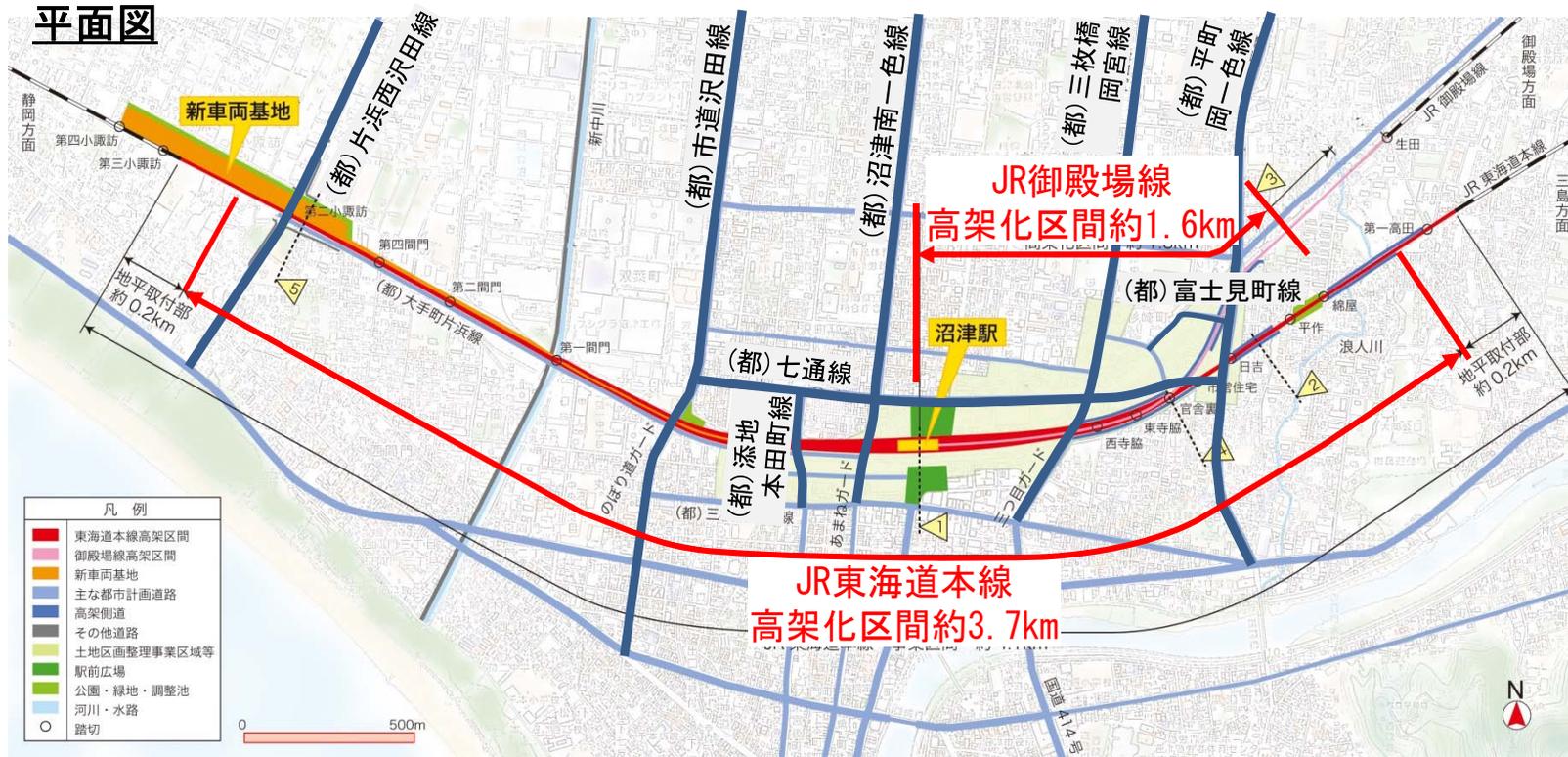
静岡県 交通基盤部 都市局 街路整備課

事業概要

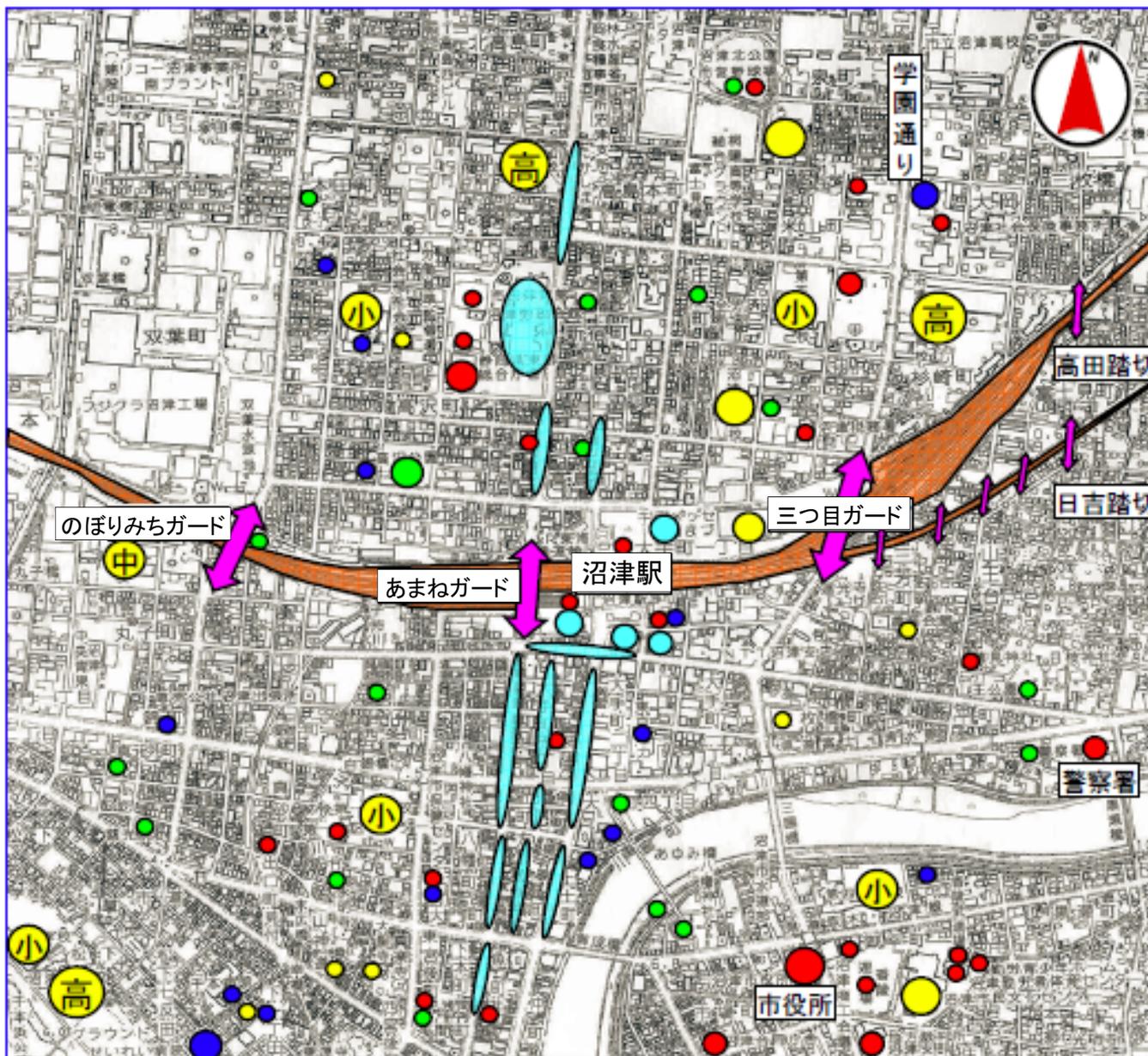


- 施行箇所：沼津市大岡～桃里
- 事業費：787億円（事業認可）
- 事業期間：平成15年度～令和16年度（予定）
- 除却する踏切数：13箇所
- 交差する幹線道路：8路線

平面図・縦断面図



中心市街地の状況① 南北市街地の分断



- 凡 例
- ↔ 鉄道横断可能箇所
 - 医療・福祉施設
 - 公園・緑地等
 - 公共・公益施設
 - 教育・文化施設
 - ショッピングセンター
 - 商店街

中心市街地の状況② 交通環境の課題

慢性的な交通混雑



線形不良による交通事故



狭隘な歩道と自転車の押し歩き



豪雨による冠水 (平成28年度から7回)



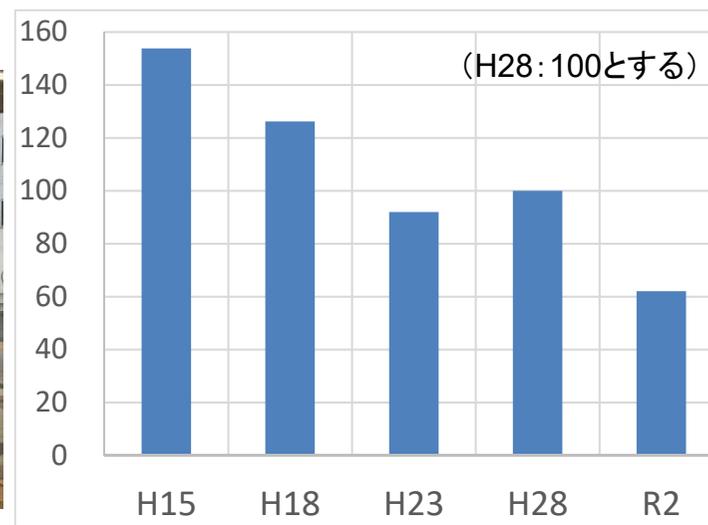
中心市街地の状況③ 中心市街地のにぎわいの低下

- ・中心市街地の大型店舗の撤退(百貨店など)
- ・郊外型大規模商業施設の立地

平成10年代前半の中心市街地



現在の中心市街地



休日の歩行者交通量推移(沼津市調査)

沼津駅周辺総合整備事業の概要①

沼津市中心市街地の現状

- 交通混雑
- 南北市街地分断
- 自転車・歩行者動線不足
- 中心市街地の低迷

沼津駅周辺総合整備事業【県・沼津市】

土地区画整理事業

駅北拠点開発事業

連続立体交差事業(鉄道高架)【県】

市街地再開発事業

特定再開発事業

関連道路整備事業

交通の円滑化

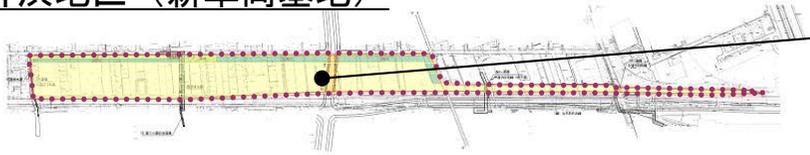
土地の高度利用

にぎわいの創出

にぎわいと活力のある県東部拠点都市の創出

沼津駅周辺総合整備事業の概要②

片浜地区（新車両基地）



静岡東部拠点第二地区
土地区画整理事業



駅北拠点開発事業
H26.7 プラサヴェルデ開館

沼津駅周辺地区



静岡東部拠点第一地区

静岡東部拠点第一地区
土地区画整理事業



駅北拠点開発事業
H18.4 Bivi沼津開館

駅北拠点開発事業

沼津駅南第二地区
土地区画整理事業



沼津駅南第一地区

沼津駅南第一地区
土地区画整理事業

市街地再開発事業



市街地再開発事業
H20.3 イーラde開館

連続立体交差事業（鉄道高架）



事業効果② 土地の高度利用・有効活用（イメージ）



駅前（あまねガード北側）



公共公益施設



医療施設



高架下利用

※上記の配置された施設や建物はイメージです

事業の進捗状況①

- 事業費ベースの事業進捗率：6.6%
- 高架本体の用地取得率：87.1%見込（前回評価時：67.9%）
- 貨物駅移転先の用地取得率：100%（前回評価時：77.6%）

用地取得 経緯	前回再評価 (H28年度末)	裁決申請 (R1.9月)	代執行請求 (R2.11月)	代執行実施 (R3.2月)
残用地件数	36件	8件	1件	0件
取得率	77.6%	94.2%	98.5%	100%

- 貨物駅移転先：工事着手に向けた埋蔵文化財調査、
鉄道事業者による詳細設計、
沼津市による造成工事を予定
- 高架区間：用地取得、埋蔵文化財調査、調査設計等
- 鉄道事業者とは、工事着手に向けた協議を沼津市とともに実施中。

事業の進捗状況②

貨物駅移転先用地取得の完了



高架本体用地取得の進捗



高架本体および新車両基地の整備に支障となる鉄塔の撤去

事業の進捗状況③

沼津駅周辺総合整備事業（土地区画整理事業）の進捗



平成28年度 駅南第一地区状況



令和2年度 駅南第一区状況

沼津駅周辺総合整備事業（関連道路整備）の進捗



令和2年度（都）片浜西沢田線アンダー道路工事

取合部拡大



令和2年度（都）片浜西沢田線アンダー道路工事
取合部擁壁工設置状況

新車両基地

市民参加・事業の広報



H29～R2
まちかどトーク(27回)意見
継続 : 796(91%)
見直し : 22(3%)
中止 : 51(6%) 計869件

まちかどトーク



沼津駅の高架化を実現する市民の会 総会



広報紙



どぼカード



新貨物ターミナル環境対策の住民説明

まちづくりの取組

沼津市中心市街地まちづくり戦略（R2. 3月策定）

4つの戦略

①ヒト中心の公共空間の創出

→沼津駅周辺の公共空間を車中心の空間からヒト中心の空間に再編

②拠点機能の立地促進

→**鉄道施設跡地を活用し、広域的な拠点都市にふさわしい都市機能の導入**

③まちなか居住の促進と市街地環境の向上

→スポンジ化を踏まえた**居住機能の立地促進と魅力ある市街地環境の形成**

④周辺地域資源との連携

→中心市街地と地域資源や周辺住宅地との連携強化



道路空間利用の社会実験（H29・30）



沼津市中心市街地まちづくり戦略

今後の事業の進捗見込み・新たなコスト縮減

【今後の事業の進捗見込み】

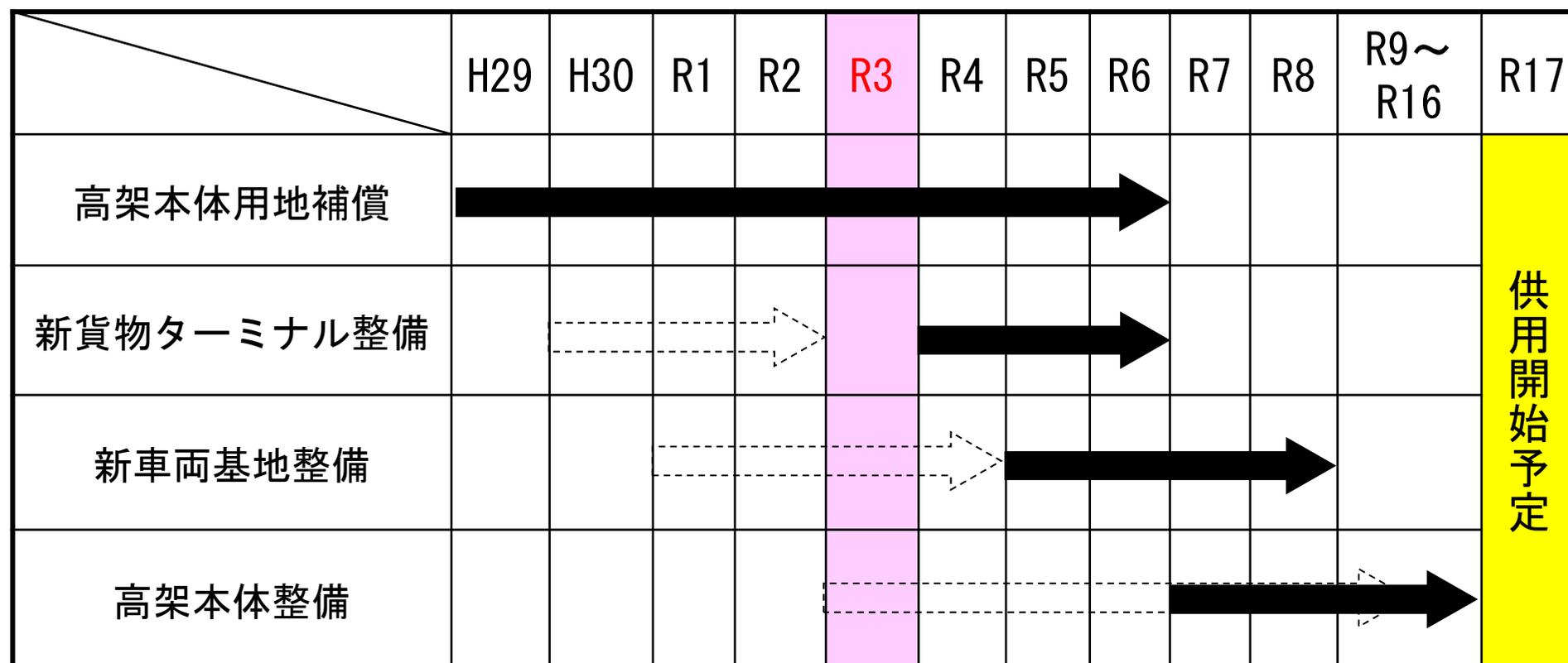
- 貨物駅移転先用地取得が完了し、工事着手のために必要な協議や詳細設計を鉄道事業者、沼津市の全面的な協力を得て進めている。
- 高架本体用地の取得を着実に進めている。
- 沼津市による沼津駅周辺総合整備業の関連事業（土地区画整理事業、街路事業）、中心市街地まちづくり戦略によるまちづくりの検討も進められている。

【新たなコスト縮減】

- 鉄道事業者との協議や設計の中で、新技術新工法の活用、施工計画の見直しなどによるコスト縮減を図る。

前回からの変更点・今後のスケジュール（案）

	前回(H28)	今回(R3)	主な変更理由
①計画期間	H15～R12	H15～R16 (+4年)	貨物駅移転先の用地取得に時間を要したため、工事着手が4年遅れたため
②全体事業費	787億円	787億円	変更なし



 今回
  前回

事業の投資効果

費用便益比 (B/C) = 1.15 (1.24)
EIRR = 4.6%

$$\frac{\text{走行時間短縮便益} + \text{走行経費減少便益} + \text{交通事故減少便益}}{\text{総費用}}$$

総便益 (B) の現在価値	1,010.1億円
・ 移動時間短縮便益	948.8億円
(自動車移動時間短縮便益 + 歩行者・自転車の踏切待ち時間解消 + 歩行者・自転車の既設ガードへの迂回時間短縮)	
・ 走行経費減少便益	53.3億円
・ 交通事故減少便益	8.0億円
(自動車交通事故減少便益 + 踏切事故の解消便益)	

総費用 (C) の現在価値	874.1億円
・ 建設投資額	877.3億円
(連続立体交差事業 + 関連道路整備)	
・ 維持管理費	1.3億円
・ 用地残存価値	-5.0億円

その他想定される便益

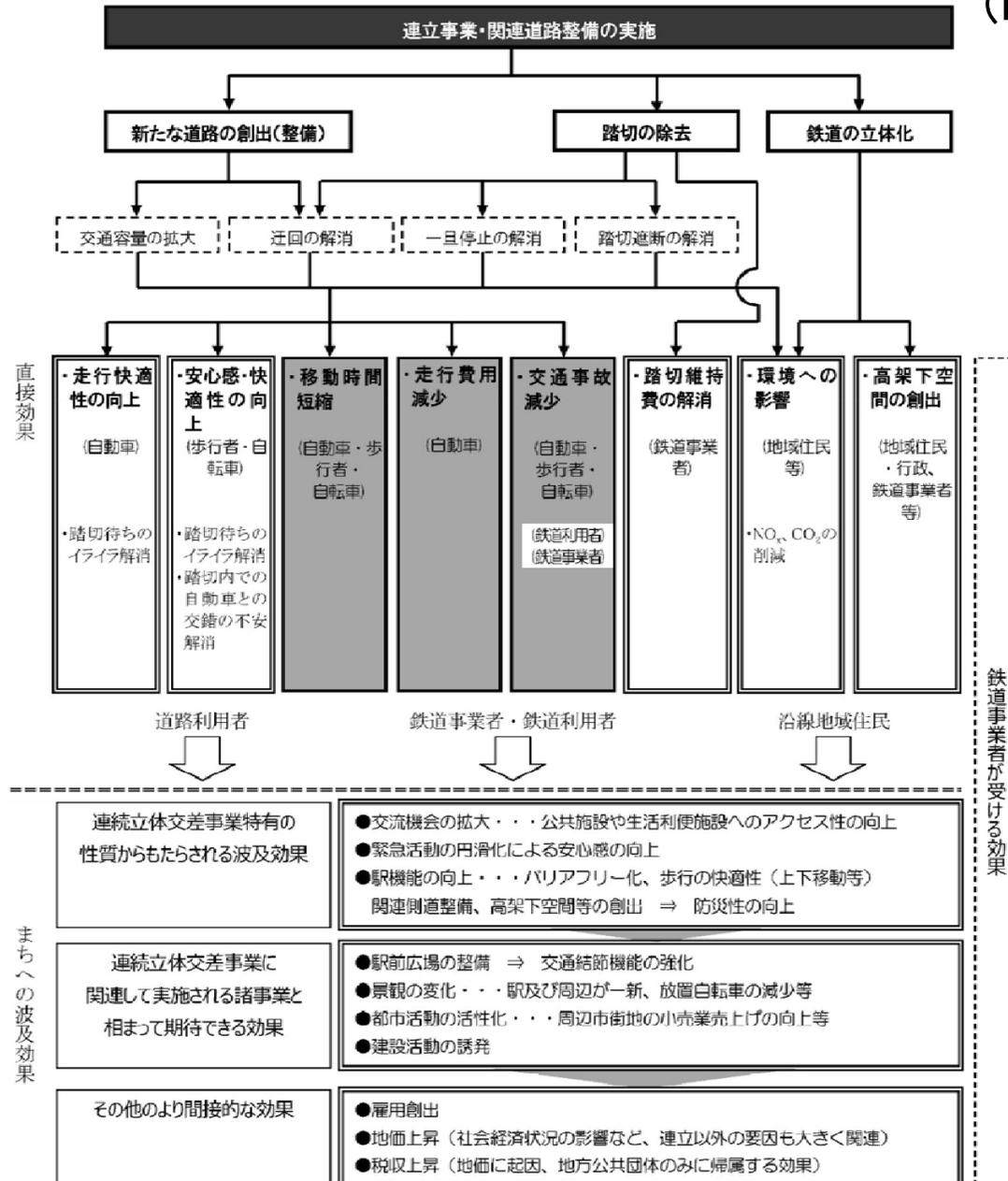
- ・ 既設ガードの冠水解消
- ・ 既設ガードの線形不良の事故解消
- ・ 踏切、ガード通行時のアイドリング解消によるCo2・NoX削減
- ・ 既設駅舎内の上下移動の短縮
- ・ 高架下空間の創出による高架下利用の効果
- ・ コンコースや高架下道路が利用可能となる歩行者、自転車の通行の快適性の向上

・ 総便益及び総費用の合計は、表示桁数の関係により計算値と一致しない

連続立体交差事業の整備効果にかかる参考資料集

【参考図：連続立体交差事業等の実施により想定される効果（例）】

(H26.3月 国土交通省)



事業の投資効果（その他想定される事業効果）

<貨幣化が見込まれる事業効果>

便益項目	概要	算定方法
高架下空間の創出	高架下空間の活用により魅力的な空間が創出される便益	事業完了後に利用可能となる高架下空間の価値を便益計上
環境への影響 (踏切待ちアイドリング排出ガス削減)	踏切待ちでのアイドリング時の自動車排出ガスが削減される便益	アイドリング時のCO2、NOx排出量を貨幣換算

<その他の事業効果>

効果項目		概要
市街地の発展・まちづくりに関する効果	南北市街地の一体化	南北市街地の一体化により、都市機能・居住機能が集積されるまちづくりが可能となる
	公共空間の利活用	駅前広場の再編や歩道の整備により、公共空間の活用が可能となる
安全な市街地の形成に関する効果	緊急車両のアクセシビリティ向上	鉄道交差部の道路整備により、緊急車両の通行が容易になり、救急活動等がしやすくなる
	避難迂回の解消・新規避難路の整備	踏切の除却および歩道拡幅による安全な避難路としての活用や避難所までの迂回が解消される
歩行者・自転車の利便性に関する効果	歩行快適性の向上	自転車・歩行者道の整備により、通行時の安全性が向上する。 コンコースの整備により、南北往来が可能となる ²²

貨幣化が見込まれる事業効果 <高架下空間の創出>

高架下空間利用例



商業施設(秋葉原～御徒町駅)



図書館(岐阜駅)



病院(武蔵境駅)

便益算定方法

$$\text{高架下空間創出便益} = S \times L \times R \times U$$

S: 高架下貸付可能面積 (m²) × 15% (地方公共団体利用分)

L: 高架下平均地価 (円/m²) (沿線500m範囲における地価公示の平均)

R: 地代率係数 (土地を賃貸した場合の料率)

U: 用途補正係数 (商業系用地比率に応じて設定)

貨幣化が見込まれる事業効果 <踏切待ちアイドリング排出ガス削減>

踏切待ちの状況



便益算定方法

$$\text{CO}_2\text{削減便益} = L \times a \times b$$

L: 踏切での損失時間(台時/日)

a : 1台1時間あたりのCO₂排出量

b : 貨幣換算原単位

$$\text{NO}_2\text{削減便益} = L \times c \times d$$

L: 踏切での損失時間(台時/日)

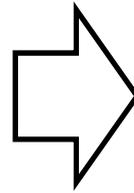
c : 1台1時間あたりのNO₂排出量

d : 貨幣換算原単位

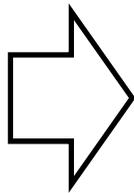
その他の事業効果

<緊急車両等の通行の円滑化・避難路としての活用>

ガード・踏切の除却及び道路改良による緊急車両の通行の円滑化



踏切の除却及び歩道拡幅による安全な避難路としての活用



その他の事業効果 <歩行者・自転車の快適性の向上>

自転車・歩行道の整備による自転車の押し歩き・上下移動の解消



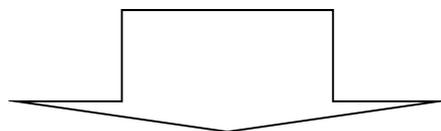
コンコース整備による駅南北の自由往来



対応方針（案）

沼津駅周辺総合整備事業の「核」となる事業

- ・ 交通の円滑化
- ・ 土地の有効利用
- ・ 防災性の向上
- ・ にぎわいの創出



県東部の拠点都市の形成

事業を継続する